

同窓会と大学のより良い
パートナーシップを目指して

一年をふりかえって



新潟大学理事・副学長 深澤助雄

寒気がゆるみ、例年のない豪雪の冬も過ぎ去ろうとしています。大学は新しい学期を迎えるまでの束の間の静閑期に入り、くつろいだ雰囲気がキャンパスに戻ってきました。思えばあわただしい一年でした。新しいシステムに慣れるまでのとまどい、「競争の原理」から来る追いたてられるようなせわしさ、さらには、はじめての分野での事業展開等、ある程度覚悟していましたが、実際の仕事量は予想を相当に上まわるものがありました。

そうしたなか、一つの組織体が大切な日常業務を着実にこなしてゆくには、何が必要不可欠なものであるか、ということを考えさせられました。社会的な混乱にふりまわされることなく任務を遂行するためには、荒い風波にもまれても安定した航行を続けられる船舶でなければなりません。それには、「船の底荷のように物事を常に正しい均衡のもとに保つ中心の重み」がなければならないということを痛感させられました。この中心の重みは、大学に於いては、伝統の厚みであり、同窓生の間に脈々と受け継がれているものです。この厚み、或いは重みが、判断に的確なよりどころを与えてくれるものであるということを知りました。

成長は、言うまでもなく未来に向けての成長ですが、しかし「過去にさかのぼることも一つの成長である」と云われます。木は、上に上にと伸びるために大地の深みに沈降し、根をはってゆかなければなりません。それと同じように大学も又、新しいこの世紀に於ける成長を過ぎ去った世紀の叡智をくみとることによって、たしかなものにしてゆきたいと思えます。

同窓会の皆さま方との提携が年を逐って強まりつつあることを心からよろこんでおります。

存在感のある同窓会づくりを目指して



全学同窓会連絡協議会副会長 多和田孝雄

昨年4月に設立された全学同窓会連絡協議会は、間もなく2年度目に入ります。この間、設立祝賀会の開催、大学との懇談会等を通じて相互の連携は益々強化されて参りました。昨年6月には記念すべき広報紙第1号を発行し、本第2号ではタイトルも「雪華」に決まりました。18年度の新潟大学全学同窓会の設立に向けて着実に進んでいます。

さて、各メディアで目にするように、大学を取り巻く環境は楽観を許さないものがあり、数年後には我々の新潟大学も厳しい評価にさらされることとなります。今こそ皆様の母校愛が必要とされております。共に立ち上がって新しい新潟大学、強い同窓会を築きたいものです。

近々に同窓会は大学のよきパートナーに育つと考えますが、同窓会のもう一つの使命である会員サービスも忘れてはおりません。各種事業、大学のブランド構築等を通じて、全ては会員に還元されます。同窓会の今後の発展をお見守り願います。

昨年は国内外に天災の多い年でしたが、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興を祈念致します。

全学同窓会連絡協議会事業報告～現状と今後～

16年度事業について

- (1) 新潟大学や全学同窓会のPRのための広報紙発行(1,2号)
・広報紙のタイトルを募集し、「雪華」と決定しました。
- (2) 全学同窓会連絡協議会のHPを大学HPに設定しました。
- (3) 全学同窓会の交流会(平成16年10月30日ホテル新潟)を予定しましたが、10月23日の新潟県中越地震の発生で延期しました。
- (4) 新潟大学法人化シンポジウムへの支援を行う予定でありましたが、地震のために延期しました。
- (5) 新潟大学と全学同窓会の懇談会を2回開催しました。
- (6) 全学同窓会連絡協議会理事会を2回開催し、平成17年2月19日の理事会で16年度事業の報告と17年度事業計画案などについて審議しました。
- (7) 実務を担当する運営委員会をほぼ毎月1回開催し、17年2月までに12回開催しました。
- (8) 新潟大学の卒業生の関係する企業に活動支援の協賛金を依頼しました。

17年度事業計画原案について

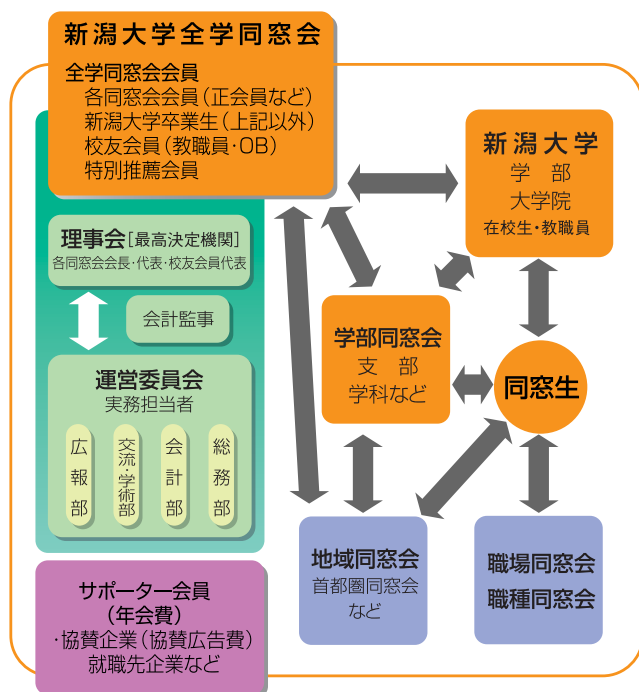
- (1) 新潟大学全学同窓会連絡協議会広報「雪華」3号を17年9月頃発行の予定です。
- (2) 全学同窓会連絡協議会の交流会・イベントを新大祭の17年10月29日に開催する予定です。
- (3) 新潟大学のさまざまな事業を支援する予定です。
- (4) 新潟大学と全学同窓会の懇談会を2回開催する予定です。
- (5) 全学同窓会連絡協議会の理事会を年2回開催する予定です。
- (6) 全学同窓会の活動をさまざまな手段でPRする予定です。
- (7) 組織化されていない同窓会を支援します。
- (8) 新潟大学全学同窓会の18年4月設立を目指します。



第2回新潟大学と全学同窓会連絡協議会との懇談会(平成17年2月19日)

18年度からの全学同窓会組織案について

- (1) 新潟大学全学同窓会は、新潟大学と社会、同窓生を結ぶ組織として、新潟大学の発展と社会への貢献を図るとともに、会員ならびに各学部同窓会の交流、親睦等を目的とします。
- (2) 全学同窓会は、新潟大学の各学部同窓会会員や教職員、OBなどで組織します。
- (3) 全学同窓会の運営と活動のための資金としては、各学部同窓会の賦課金・分担金を基本としつつ、協賛企業に協賛広告費などををお願いすることとします。
- (4) 各学部同窓会はこれまでどおり存続します。全学同窓会では、全学同窓会員(各学部同窓会員、校友会会員など)に自発的な任意の支援費(年2,000円程度)を依頼する予定です。



現在協議中の新しい新潟大学全学同窓会関係図(案)

同窓生の今

「凡人のベンチャーの作りかた」

クリーン・テクノロジー(株) 代表取締役社長
昭和46年 工学部応用化学科卒

西澤和夫



私は新大卒業後アルプス電気に就職し、13年後に社内ベンチャーを立ち上げた時迄は良かったのですがその後失敗。平成2年に退職し、一ヶ月後に新たなベンチャーを起こすに至りました。辞める前の1年間は独立のための準備をしましたが、明確なビジョンは有りませんでした。今はやりのITベンチャーとは雲泥の差です。「生きる為にベンチャーを立ち上げた」というのが偽らざるところです。

最初は社員1人でしたが14年経過した今は95名です。液晶製造装置(UV、IR、HP/CP)を開発製造し、海外にも出荷しています。「凡人のベンチャーの作りかた」は正直に言いますと、ベースに「やる気、根性」その上に「運」。

運命の女神を必死になって捕まえる努力をする以外に無いと思います。しかし大きくなくとも、小さな女神は結構いるような気がします。特に周囲の知人の肩先にいることが多いように思います。ですから人脈は大切です。それとプラス思考であるべきです。くよくよしていたら本当に体がもちません。

今後も同窓の方々のご指導のもとプラス思考で女神を追いかけてゆきます。



中越地震特集

新潟県中越地震の被害調査

中越地震新潟大学調査団長
新潟大学積雪地域災害研究センター長

高濱信行



平成16年10月23日夕刻、新潟県中越地方でたてつづけに震度7(M6.8)、6強の強い地震が3回も発生し、その後も強い余震が頻発(M4以上が100回+)した。「信濃川地震帯」とよばれ現在も活発な地殻変動帯でおこった地震であった。被害は死者40名、負傷4586名、住宅全半壊13880棟、新幹線の脱線、山古志村全村民避難など甚大な震災となった。新潟では1964年の新潟地震以来の大きな震災で、また、7月の新潟豪雨災害の復旧途中での災害でもあった。1995年の阪神・淡路大震災の「都市型震災」とくらべ、この震災は「地方・中山間地・豪雪地型」といえる。



魚沼市新道島の全壊家屋

新潟大学では、地震発生の翌日から現地被害調査に入り、早い段階で「中越地震新潟大学調査団」を組織、多面的な調査活動を行った。調査の経過・成果はホームページ <http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/~earthquake/> を通じて逐次発信をつづけている。1月29日には新潟大学と調査団で「中間報告会」を開催し、3月5日には大学主催で「復興への総合的視点」と題するシンポジウムが開かれる。

現地調査の結果、強く被害を受けた場所が線状・点状に分布する遍在性をもつことが特徴の1つで、これは、直下型地震と地盤・地質構造を強く反映したものとみられる。この説明は今後の地震災害対策の貴重な資料となる。

この原稿を執筆中の2月初旬現在、中越地域は19年ぶりの豪

雪で各地で被災家屋の倒壊、人身事故、なだれが発生している。地震による豪雪地域での複合災害が現在もつづき、またこの春には雪融けにともなう災害、とくに山古志村でその心配が大きい。



皆川優太ちゃんが救出された長岡市妙見の崩壊

このようなもて、被災者の方々は復旧さらに復興にむけて懸命に頑張っている。その姿が毎日の新聞・テレビで報道されている。地元大学として、またその一員として、少しでもそのお役にたつことが我々の責務と思う。同窓生の皆様にも被災地への物心両面の支援をお願いしたい。



山古志村寺野地区 芋川を堰き止めた地すべり

山古志村の復興を願って

大学院医学総合研究科博士課程2年(ブルガリア共和国出身)
ゲオルギエフ・ステファン

新大の留学生センターで組織された三部旅行(田植え・稲刈り・餅つき)の参加者として山古志村を最初に訪問したのが平成14年5月、日本に来て僅か1ヶ月でした。山古志村の田んぼを初めて見て、こんなにきれいな景色があるのかと大変驚きました。その時は日本語が全然出来ませんでした、その後数回家族と一緒に訪問し、山古志村の人々との交流の中で、大の山古志ファンになりました。

テレビの地震報道に接し、動揺しました。被害を受けた山古志を少しでも援助できないかと思って、先月国際ボランティアサークルの日本人学生や留学生とともに避難所に行き、除雪の手伝いをしました。山古志村が元の美しさを取り戻せるよう願っています。



一緒に食べたい、地震に負け米！！

山古志村立山古志小学校 教諭(平成13年 教育学部卒)
相澤 勇弥

「お帰り。山古志小学校だよ。」避難所から登校した子どもたちを迎えた阪之上小学校。子どもたちは、慣れない学校で不安もあったが、たくさんのお米を食べて、温かい配慮の中に迎えていただき、今ではお互いに笑顔で遊んでいる。私の担任している5学年の子どもたちは感謝の気持ちを持ち、地震の前に山古志で育てた大切なお米をぜひ阪之上小の児童と一緒に食べたいと、現在、計画を立てています。



「四季の新潟」CDがついに発売！！

新潟市出身の歌手小林幸子さんが新潟県の連続災害からの復興を願って歌った新・新潟市誕生記念歌「越後絶唱」のシングルCDがコロムビアレコードから発売されました。この中には新潟大学の学生に古くから親しまれてきた「四季の新潟」がカラオケ版付きで入っています。(CD売り上げの一部は復興義捐金に充てられるそうです。)



同窓会の沿革

- 昭和28年(1953年)人文学部第1回卒業生誕生。当時の人文学部は次のように2学科8専攻課程であり、学科別の同科会として同窓生の連絡が行われていました。人文科学科(哲学・心理学・歴史学・国文学・英米文学・独逸文学の6専攻課程)社会科学科(法律・経済の2専攻課程)
- 昭和34年(1959年)同科会を統合して人文学部同窓会が発足。
- 昭和52年(1977年)人文学部は「法文学部」と改組。
- 昭和55年(1980年)法文学部が「人文学部」「法学部」「経済学部」の3学部へ改組。

同窓会の目的と事業

- (1) 会員相互の親睦と母校の発展を図ります。
- (2) 同窓会員名簿と会報の発行。総会などの開催。

(3) 会の目的達成のための適当な事業。

これまでの主な活動

- (1) 周年記念事業
昭和58年(1983年)の同窓会創立30周年記念総会から35・40・45と回を重ねて、平成15年(2003年)には50周年記念総会が朱鷺メッセで盛大に行われました。
- (2) 開学50周年記念事業
親松英治氏作(勝利の像)を大学に寄贈。殺風景な校庭の憩いの場となっています。
- (3) 名簿と会報の発行
隔年発行の名簿は2003年版を最後に「CD-ROM」化され、会報「青松」は年2回の発行を続け、会員相互の懸け橋の役割を果たしています。
- (4) 支部活動
首都圏・長岡圏域の2支部が、本部と連携し

- それぞれの活動を行っています。
- (5) 趣味の同好会
現在「ゴルフ会」と「囲碁の会」がそれぞれ年2回の大会を開催しています。



開学50周年を記念して大学に寄贈した法経済学部前の《勝利の像》

工学部同窓会

同窓会の沿革

- 新潟大学工学部の在學生や卒業生、工学部の教員が会員です。会員数は約23,500名。
- 同窓会の本部事務所は工学部の中にあり、工学部同窓会は「悠久会」とも呼びます。
- 同窓会の名誉会長は工学部長です。
- 新潟大学工学部の卒業生である教員が中心となって同窓会活動を手伝っています。新潟大学工学部卒業生の連携と親睦を深め、それとともに新潟大学工学部の発展と社会・産業の発展に貢献することを目的とします。全国に28支部あり、同窓生がそれらの支部長になっています。

悠久会の活動

- (1) 新潟大学工学部への支援
さまざまな支援を行い工学部の発展を助けます。

- (2) 卒業祝賀会
新潟支部の同窓会の方々と毎年「卒業祝賀会」を手伝っています。
- (3) 奨学金の貸与
同窓会からの奨学金の貸与で、新潟大学工学部出身の修士課程や博士課程の学生の学費を助けています。
- (4) 会員名簿の発行
23,500名の会員の正確な名簿(冊子版)とCD-ROM版を3年毎に発行し、全会員に配布しています。
- (5) 同窓会誌
工学部や同級生の近況などを、年2回発行の「悠久会時報」で知らせています。
- (6) 全国総会
新潟大学工学部の卒業生が一堂に会して、一年間の事業計画を決めます。

- (7) 悠久会館の建設
17年度中に、五十嵐キャンパスに「新潟大学科学技術交流悠久会館」の建設を予定しています。
- (8) ホームページ
「www.yukyukai.net」で活動の詳細を公開しています。



工学部創立80周年記念式典(平成15年6月14日) 左から、副知事、文部科学省大臣官房審議官

教育学部同窓会

同窓会の沿革

- 昭和28年3月に結成された三分校卒修生連絡協議会を母体に、昭和31年11月に発会しました。
- 平成17年4月から「教育人間科学部同窓会」に名称を変更します。
- 会員相互の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与することを目的とします。
- 卒業生総数は約24,500名で、現会員数は約4,500名。県内の現職教員を中心に構成されています。
- 17年度から学生会員を準会員とするほか、退職会員の継続加入、教職以外の職域の会員登録を働き掛けます。
- 新潟県以外では福島県支部があります。今後、他県に居住する卒業生の会員登録について検討します。
- 新潟市西大畑町の附属養護学校に事務局を置きます。

・支部長、学科代表で構成される評議会が最高の議決機関です。

同窓会の活動

- (1) 同窓生の集い
それまでの「研修の集い」と「女性会員の集い」を一本化しました。年1回音楽鑑賞会と懇親会の2部構成で開催。今年度は、10月2日に実施。第1部は教育人間科学部田中幸治助教授のピアノリサイタル(だいしホール)でした。
- (2) 同窓会報およびホームページ
会報「教育新報」を年3回発行。評議会の議事や同窓生の集いの報告、会員の声、などを掲載。独自のホームページは教育人間科学部にもリンクしています。
- (3) 支部及び学科の活動
市村合併に伴う支部組織の再編が緊急課

題です。学科のうち、約半数が定期的に研修会や懇親会を開いています。学部再編によって、学科組織についても見直しが必要になっています。

- (4) 名簿作成
6~8年毎に卒業生全員の名簿を作成し、希望者に販売しています。



理学部同窓会

■リニューアルした理学部同窓会

昭和24年の理学部設置以降、卒業生の増加にともない、理学部では各学科に同窓会が組織され、同窓会活動は各科毎に行っていました。

平成3年10月、各科同窓会の連合体として、現在の理学部同窓会が設立されました。平成6年に自然環境科学科が設置され、平成10年には自然環境科学科同窓会も組織され、理学部同窓会の一員となりました。

平成16年4月に設立された新潟大学全学同窓会連絡協議会への参加を契機として、理学部同窓会の組織・財政の強化を図るための改組が必要となりました。

平成16年8月の総会において、改組とそれに伴う会則の抜本的改正が承認され、理学部同窓会は新しい組織に生まれ変わりました。

■理学部同窓会活動

- (1) 代議員会・総会
代議員会は各支部から推薦された代議員から構成され、年1回開催されます。総会は3年毎に開催され、会長の選出、会則改正等の重要案件を扱います。
- (2) 支部活動
支部には従来の各科同窓会を母体とする学科支部と地域支部があります。
- (3) 広報活動
年1回発行の「会報」、このほかメール、FAX、ホームページ等を通じての情報提供を行います。
- (4) 事業
理学部後援会との連携を深め、就職活動支援、在校生向けセミナー、在



平成16年8月28日に開催された理学部同窓会総会の様子:右2枚の写真

校生とOB・OGとの交流事業に力点を置いて取り組めます。

事務局

〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050

新潟大学積雪地域災害研究センター

渡部直喜

Tel.&Fax:025-262-7058

jibanken@cc.niigata-u.ac.jp

医学部学生会

www.med.niigata-u.ac.jp/yujin/

■医学部学生会(有壬会)

新潟大学医学部学生会は、新潟医学専門学校(現新潟大学)の卒業生が大正4年(1915年)に組織した同窓会に端を発します。現在の会員数は6,505名。北海道から沖縄まで、全国に60の支部があります。会員には他大学を卒業した本学の教員や本学で研修を受けた人も含まれます。

■医学部学生会の活動

- (1) 理事会・総会
年1回開催。在新潟市理事会は年4回、定例幹事会は年7回、本部役員懇談会は月1~2回開催されます。
- (2) 支部活動
各支部で開催される支部総会には本部役員も参加します。
- (3) 広報活動
「学生会報」と「有壬だより(新聞)」をそれぞれ年2回発行。そのほか、ホームページ、

電話、FAXを通じての情報サービスも行っています。

- (4) 市民公開講座「有壬セミナー」(年1回)
- (5) 関連教授懇談会(年1回)
- (6) 関連病院連絡委員会(随時)
- (7) 有壬基金医学研究助成・有壬記念学術奨励賞
- (8) 名簿作成(3年毎)

■医学部創立75周年記念事業

医学部創立75周年(1985年)を記念して、会員の寄付により、「有壬基金」の創設とともに「有壬記念館」(写真)が建設されました。

■医学部創立100周年記念事業と財団法人新潟医学振興会

創立100周年(2010年)記念事業の一環として、会員の寄付により、平成16年に財団法人「新潟

医学振興会」が設立されました。特定公益増進法人にも認可され、学生会とともに医学部の教育・研究を支援しつつ、地域医療の発展に寄与することが期待されています。



有壬記念館 大ホールと会議室を備え、同窓会員以外も利用可能なレストランが通年営業

歯学部同窓会

www.dent.niigata-u.ac.jp/alumni/

■新潟大学歯学部と歯学部同窓会

新潟大学歯学部は、「人類の福祉増大と、人類の歴史を創造するに積極的な役割を果たすべく、より進んだ歯科医学を築く研究心のある歯科医師を育てることを目標とする」という理念のもと、日本海側で唯一の国立大学歯学部として昭和40年(1965年)に設置されました。同年に1期生42名が入学して以来40年が経過し、平成17年3月には35期生が卒業します。平成16年に歯学部2番目の学科として口腔生命福祉学科が誕生しました。これは歯科衛生士と社会福祉士の受験資格を取得できる4年制の学科です。

歯学部同窓会は昭和51年(1976年)に発足しました。現在の正会員数は1,870名で、北海道・北東北・山形・福島・栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉・神奈川・新潟・富山・石川・長野・福井・近畿・沖縄の17支部が活動しています。

■歯学部同窓会の構成と活動

歯学部同窓会は会長以下、副会長7、理事26、監事2および学術委員10名で構成されており、毎年、総会1回、評議会2回、理事会4回および3役員4回を開催しています。

学術事業は独立運営とし、毎年趣向を凝らした講演会や実習セミナーを年4から8回程度、また総会後の学術講演会は「新潟歯学会」と合同で開催しています。渉外部門では、年2回の教授会との定期協議会、準会員である学生への様々な援助、納涼会を兼ねた6年生への進路相談会、そして卒業式当日に同窓会入会式と歯学部玄関への卒業生ネームプレートの掲示などを行っています。福利厚生部門では慶弔関連事業や診療代診医相談窓口などの企画運営、広報部門では年1回の会誌発行とwebページやメールマガジンの運用、そして名簿部門では3年毎に名簿発行を行っています。



歯学部同窓会事務局

〒951-8514 新潟市学校町通2-5274

電話/FAX 025-229-4166

alumni@dent.niigata-u.ac.jp

農学部同窓会

同窓会の沿革

新潟大学農学部同窓会は、同窓会規則第3条「本会は、会員相互の理解と親睦をはかり、本学部の発展に寄与することを目的とする」ことで昭和28年に創立しました。創立35周年後、農学部の前身である新潟農林専門学校卒業生を特別会員として、迎え入れ、さらに現在は新潟大学大学院農学系の卒業生も会員になっています。

本会は、会長以下、副会長9・幹事長・副幹事長6・職域別に新潟県庁16・教員2・農業団体4・農専4・一般12の幹事・在校幹事20・会計幹事2・会計監査3と農学部長に名誉会長・会長、幹事長経歴者諸先輩に顧問という構成で組織されています。

総会は4年に1回と毎年開催される常任幹事会が年間事業を計画し、事業実行は、在校幹事会と幹事長・在校副幹事長・会計幹事・

広報担当幹事の役員会で執行されています。

新潟大学農学部同窓会の活動

- (1) 新潟市五十嵐新校舎完成移転時に農学部中庭の「嵐丘庭」樹木の寄贈
- (2) 創立35周年記念事業(記念講演会・「松濤」記念号・絵画「牛と農夫」の寄贈等)
- (3) 創立50周年記念事業(記念講演会・「松濤」記念号・学術資金募集等)
- (4) 学術文化活動への助成(「日・ロ国際フォーラム」・「農学部フォーラム」等)
- (5) 国際交流への助成として毎年「農学部留学生と教職員との懇親会」を行っています。
- (6) 「松濤」毎年・「名簿」4年に1回発行

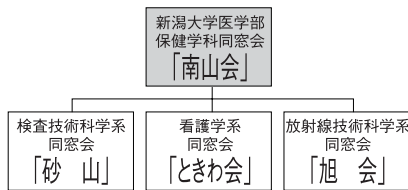
FCセンターの「公開村松農場」・「森の楽校」・FCセンター生産物の販売など地域住民に開放されています。これら「農学部テ、ナンドロー」の情報は農学部ホームページへクリック。
<http://www.agr.niigata-u.ac.jp/>



農学部校舎中庭「嵐丘庭」(新校舎移転同窓会記念事業)

医学部保健学科同窓会南山会

南山会



本会は昭和60年に創設され、新潟大学医療技術短期大学部をはじめとする前身校、及び保健学科の卒業生、保健学科の在学生、当学科の教職員等から組織されており、現在の総会員数は約7000人を数える歴史ある同窓会です。

本会は、学科内の各専攻の同窓会(分会)である新潟大学看護学系同窓会「ときわ会」、新潟大学放射線技術科学系同窓会「旭会」、

新潟大学検査技術科学系同窓会「砂山」の3分会より成り立つ統合組織で、「南山会」と称しています。その目的は、「会員相互連携と親睦及び医療職者としての資質向上を図り、併せて新潟大学医学部保健学科の発展に寄与すること」と会則に謳われています。

同窓会の運営・構成と活動

運営:

「南山会」の運営は、会長、副会長(3名)、幹事長、幹事(若干名)、監事で構成される役員を中心に、各分会選出の代議員約50名で行われています。

構成:

前身校及び保健学科の卒業生である正会員、保健学科の在学生である準会員、保健学科の教職員等の特別会員で構成されて

います。

活動:

- (1) 運営方針や代議員会での審議事項を決めます。役員会を年数回行っています。毎年5月には、事業計画、予算、決算の審議ならびに監査報告を行う定例総会としての代議員会を開催しています。
- (2) 例年3月には会報を発行し、全会員へ宛てて発送を行っています。
- (3) 保健学科との親睦を深め、種々の相談の場を提供する事を目的としています。
- (4) 学友会との交流会を行っています。また、学園祭や運動会への資金補助も行っています。
- (5) 全専攻共同の勉強会や研修会も主催してゆきます。

人・まち・文化、新潟大学

特別寄稿

良寛研究40年・書道研究50年

新潟大学名誉教授、良寛研究所長
新潟大学書道教育学会会長

加藤 儔一



新潟大学を定年退職して疎遠になるのかなと思っていたら、新潟大学eラーニング公開講座「良寛入門」(BSNと提携事業)に引っ張り出され、現職に復帰したような喜びを感じている。ほかにアニメ映画「良寛さん」の制作実行委員・監修者や、NSTテレビ講座「良寛さんのところにふれてみよう」(全15回)に出演。映像を通して小学生に良寛の心を知ってもらおうよい仕事が出来たように思う。

現在10年計画の「良寛の勉強会」を無料開講中(良寛研究所)であり、全国良寛会副会長・事務局長として、年4回の会報の編集その他、良寛文化の情報発信にもつとめている。

国際的には北京大学の良寛国際シンポジウムに出席。これは

新潟市・全国良寛会共催の同シンポジウムの流れをくむものである。

新潟大学構内には良寛像「天上大風」が建立されており、新潟大学や新潟県は、良寛の人を敬う心、愛する心、命を大切にしている心等に学ぶ良寛大学や良寛県であってほしいと、期待をふくらませているところである。

昭和57年、教育学部新校舎完成記念に立てられた良寛像。「天上大風」は筆者の書。



新潟大学 がんばれ！



理学部地質科学科の屋外実習風景



私たちが新潟大学を応援しています

荒井印章・五十嵐銅鉄店・エアブラック(株)・鹿島建設(株)・金井度量衡(株)・(株)キタック・(株)北村製作所・共立印刷(株)・(財)協和会・(株)考古堂書店・(株)小林印刷所・(株)コロナ・(株)サンケイ情報ファシリティ・(株)サン・システム・(株)七里商店・清水建設(株)・(株)白川商店・(有)信成科学・(株)新日興業・新日本空調(株)・(有)真保電機工業・(株)シンワ齒研・スズキ商事(株)・(株)鈴商・青陵法律事務所・太平興業(株)・(財)竹田綜合病院・中央補償鑑定(株)・監査法人トーマツ・轟産業(株)・中田会計事務所・(株)新潟オービックシステムエンジニアリング・(株)新潟科学・新潟県労働金庫・新潟サンセルフ・新潟綜合警備保障(株)・新潟ニッタン(株)・(株)バイオニア・(株)博進堂・長谷川体育施設(株)・(株)畠山種苗園・光タクシー(有)・深滝経理事務所・(株)福田組・福田道路(株)・(株)ベネミール・北越工業(株)・星野電気(株)・(株)細貝建築事務所・(株)ホテル新潟・八百六商店・(有)やしち酒店・ユニオンツール(株)・(株)リビングギャラリー (平成17年3月1日現在)

新潟大学からのお知らせ

分野・水準表示法と副専攻制度の導入

新潟大学では、従来の教養教育と専門教育とを有機的に連携し、自立的に学ぶ意欲を持つ学生を支援することを目的に、「分野・水準表示法」とそれを基礎とした「副専攻制度」を導入しました。

分野・水準表示法は、医学部・歯学部を除く7学部で開講されているすべての科目に、分野と水準を示すコードを統一的に付けるものです。これにより、全学共通科目・専門科目を問わず、また、開設学部・学科などを問わず、新潟大学の全開設科目を分野別・難易度別に一覧表の形で見ることができ、各科目の難易度を明確に把握し、科目の相互関係や体系性を理解することができます。

副専攻制度は、自らの専門分野以外の特定分野科目を一定単位数以上取得した学生に、その勉学の認証を付与する制度です。学生は卒業時に副専攻認定の申請を行います。一定基準を満たしていることが確認されれば、専門分野にかかわる「学士」の卒業証書に加え、分野を明記した「副専攻認定証書」を授与されます。自分自身のキャリアアップと同時に、就職などに有利なセールスポイントとして多様に活用できます。

「キャリアセンター」の事業

新潟大学就職部では、各部局と連携し、就職希望学生への支援を担当してきました。

多様化する学生への対応が望まれる昨今こそ、我が新潟大学では受け入れた学生すべての進路について、大学一丸となって取り組んでいかなければなりません。そこで、平成17年4月から、新潟大学はこの就職部を「キャリアセンター」として改編し、学生の進路指導全体をサポートすることにしました。

学生の入学から卒業までの一貫した手厚い支援体制こそ、新潟大学の今後の発展に繋がると言っても過言ではありません。そのためにも、先輩である同窓生の皆様にも学生の進路支援体制の一翼を担っていただきたい、と願っております。<お問い合わせ> 新潟大学キャリアセンター tel.025-262-7890



新潟県連続災害復興への取り組み

平成16年は天災の年となり、とりわけ新潟県は、「7.13新潟豪雨災害」と「新潟県中越地震」という大災害に見舞われました。災害発生以来、新潟大学では専門分野の教員を中心に学術調査活動を行うとともに、学生・教職員によるボランティア活動や医療救護活動等に積極的に取り組んでおります。これらの取り組みは、第1回「7.13豪雨災害と中越地震の総合的検証」(2005.1.29)、第2回「復興への総合的視点」(2005.3.5)という2回のシンポジウムを通して、市民や行政の皆様を紹介しております。

新潟大学では、今後も、自然災害により生じた生命・財産に係る被害からの復興を推進するため、学術的かつ多角的視野からの調査分析を基盤とした提言を行い、地域社会に貢献していきます。

連続災害への取り組みホームページ:

www.niigata-u.ac.jp/gakugai/im/suigai_jisin.html

全学同窓会連絡協議会からのお知らせ

新潟大学・全学同窓会イベントおよび新潟大学全学懇親会・同窓会交流会について

- 日/平成17年10月29日(土)
 - 場所/新潟大学キャンパス・市内ホテルなど(予定)
 - 会費/未定
 - 主催/新潟大学全学同窓会連絡協議会・新潟大学
- 詳細は未定です。決まり次第HPなどで紹介の予定です。

全学同窓会連絡協議会第2回理事会

平成17年2月19日に第2回理事会が運営委員会と合同開催され、16年度事業および決算の中間報告が行われました。17年度事業計画原案や新潟大学と全学同窓会連絡協議会の懇談会、18年度に設立予定の全学同窓会組織案についても検討され、全学同窓会が設立されても各学部同窓会はなくなることはないこと、卒業生だけでなく新潟大学を支える全ての教職員も校友会員として参加すること、自発的な任意の支援会費をお願いすることなどが確認されました。10月29日のイベントなどについては新潟大学とのWGで検討することになりました。詳細は全学同窓会連絡協議会のHPをご覧ください。

広報紙タイトルが「雪華」に決定

全学同窓会連絡協議会広報(本紙)のタイトル募集に、多数の提案をいただき有難うございました。学長、同窓会長を含む選考委員会で、佐藤定雄氏(昭和48年歯学部卒)の「雪華」が選ばれました。「新潟大学学章=雪の結晶=雪華の三段論法を基に、会員一人ひとりのかけがえのない才能を結集し結晶化できれば、「雪華」のように大きな力と美を發揮できることを本紙に願いを込め「雪華」と表しました。」とのことです。平成17年2月開催の新潟大学と全学同窓会との懇談会の席上、佐藤氏に表彰状と副賞が贈呈されました。



広報紙「雪華」のシンボルマーク募集

全学同窓会連絡協議会広報(本紙)のシンボルマークを募集します。どのような図案が良いでしょうか。新潟大学全学同窓会にふさわしい新しいマークを提案してください。8月末の締め切りです。採用の方には薄謝を進呈します。詳細については連絡協議会のホームページをご覧ください。

首都圏同窓会からのお知らせ

首都圏同窓会は各学部同窓会の首都圏地域の連合体です。同窓会活動の高齢化や参加者の少なさが各同窓会で問題となっております。首都圏には1万名に近い同窓生が居られると聞いておりますので、同窓会活性化の為総会等に是非1回ご参加頂きたいと存じます。その中で新しいふれあいができ交流の輪が拡がり仕事のヒントが得られることもあるでしょう。年齢差や業種を超えて楽しい一時が得られると確信しています。

(首都圏同窓会副会長兼事務局長 鈴木輝雄)

首都圏同窓会のホームページ: www.m3a-rikka.net

新潟大学全学同窓会連絡協議会

お問合せ・連絡先は

〒950-2181 新潟県新潟市五十嵐2の町 TEL025-262-7891 FAX025-262-7892

dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

<http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/gr/dousoukai/>

運営委員会広報部より

特別寄稿の加藤信一先生に無理をお願いして表紙の「雪華」の揮毫をいただきました。この隷書という書体は、篆書(てんしよ)の字画を簡略化したもので、秦の始皇帝のとき、程邈(ていぱく)が始め、漢代に更に改められた歴史をもつそうです。歴史を担える協議会でありたいと思います。

多くの企業からのご支援に感謝申し上げます。協賛は随時受け付けております。事務局までご連絡下さい。